

第1回徳島県教育振興審議会について

教育創生課

第1回徳島県教育振興審議会 会議概要

- 1 日 時 令和4年12月14日（水）
午後1時15分から午後1時45分まで ※「教育振興審議会の単独開催」
午後2時から午後4時まで ※「総合教育会議との合同開催」
- 2 場 所 徳島グランヴィリオホテル グランヴィリオホール
- 3 出席者
教育振興審議会の単独開催 教育振興審議会委員 18名
総合教育会議との合同開催 知事，教育長，教育委員5名，教育振興審議会委員18名
- 4 会議次第
○教育振興審議会
・会長・副会長の選出，諮問，徳島県教育委員会の取組についての説明等
会長 佐古 秀一 鳴門教育大学 学長
副会長 加渡 いづみ 四国大学短期大学部 教授
副会長 青木 正繁 医療法人新心会 次長
○総合教育会議との合同開催
(1) 次期「徳島教育大綱」及び次期「徳島県教育振興計画」の策定について
(2) 意見交換
- 5 出席者から出された主な意見（「徳島教育大綱」の5つの重点項目別に整理）
(1)重点項目Ⅰ「未知への挑戦！未来を創る教育の推進」
 - ・持続可能な開発目標(SDGs)の実現に向け，そのマイルストーンとなる消費者教育の推進や，GXスクールの全県展開等に積極的に取り組む必要がある。
 - ・学校教育のデジタル化を進める上では，紙とデジタルのベストミックスや，子どもたちのメディアリテラシーの育成，学力の在り方などについての検討が必要となる。
 - ・若者の内向き志向が言われる中，コミュニケーション能力重視の英語教育や，グローバル人材の育成を推進することは非常に重要である。
(2)重点項目Ⅱ「夢と志を実現！確かな学びを育む教育の推進」
 - ・キャリアパスポートの活用や地元企業でのインターンシップ等の経験が，子どもたちのキャリア意識の醸成，さらには地域活性化につながるのではないかと。
 - ・成功体験や失敗を乗り越えた経験等をとおして，自己肯定感を高め，子どもたちのウェルビーイング向上につなげることが非常に重要である。
 - ・閉塞感が感じられる中，無気力な生徒の増加を感じている。次期計画策定にあたっては，引きこもりや不登校といった課題への対応と合わせて考慮すべきと考える。

(3) 重点項目Ⅲ「一人ひとりが輝く！多様性を育む教育の推進」

- ・子どもたちが達成感を味わいながら、ポジティブな行動を増やしていくという好循環を生み出す「スクールワイドPBS」の取組を推進する必要がある。
- ・教職員が、発達障がいの特徴に一層の理解を深め、多様性のある子どもたちにしっかりと対応し、一人ひとりの個性や感性を生かした教育を展開してもらいたい。
- ・子どもたちの身の回りには多くの人権問題がある。これまでの人権教育の成果を受け継ぎつつ、新たな課題にも対応できるよう、大綱や振興計画に位置づける必要がある。

(4) 重点項目Ⅳ「誰もがいきいき！生涯を通じ、安心して学ぶ教育の推進」

- ・誰一人取り残さない質の高い学びの実現に向けて、学生インターンシップの有効活用の検討や、教員の定数増を図り、先生方の負担を軽減する必要がある。
- ・「地域とともにある学校づくり」を進めるために、コミュニティ・スクールを有効に活用し、特色ある学校づくり、地域づくりを進める必要がある。
- ・人生100年時代を見据え、生涯学び続けることのできる環境づくりを推進するには、社会教育と学校の連携や、リカレント教育、リスキリングが重要になってくる。

(5) 重点項目Ⅴ「世界へ飛躍！『徳島ならではの』の文化・スポーツレガシーを創出する教育の推進」

- ・コロナの影響もあり、子どもの運動能力や競技力の低下に危機感を覚える。徳島の選手を徳島で育成できるよう、未来のアスリート育成につながる取組を推進してほしい。
- ・少子化や過疎化、教員の働き方改革等により、部活動の存続が危ぶまれている。外部人材の活用や総合型の地域スポーツクラブの整備・充実を進めるべきではないか。
- ・「ふるさと徳島」への誇りを培う教育を推進し、持続可能な地域の担い手をしっかり育成してほしい。

(6) その他

- ・大綱と振興計画の一体化・パッケージ化という視点は、非常に分かりやすく、教職員の意識改革にもつながる有意義なことである。
- ・2025大阪・関西万博に向けた機運の醸成と参画の促進に取り組み、徳島の未来を担う人材の育成につなげてほしい。